このたび、第１回公募展「星のある風景」に多数の応募を頂、審査委員一堂、たいへんうれしく思います。この公募期間中は、異常気象ともいえる悪天候が続き、今年の夏の「星景写真」を撮影できるチャンスはほとんど無かったのではないでしょうか。このような中で、北は北海道から南は沖縄まで全国各地より 75 名の応募者があり、星景写真の撮影地も、北海道知床から南は波照間島まで総数 196 点もの写真が集まりました。

星景写真とは、地上の風景と星空を一緒に写した写真ですが、撮影者の意図のもと、両者の相乗効果がある作品を特に星景写真と呼びます。それだけに、美しい風景を背景に星空を撮影すれば良いということだけではなく、撮影者が自然とどのように関わり・どのように対峙しているか、また、自然の織り成す瞬間をどのように捉えるかを示す写真でもあります。今回のコンテストで受賞した作品は、いずれも、星景写真の基本を押えていると同時に、撮影者と自然との対話が見える作品でした。特にグランプリになった宮野勝彦さんの作品「明雲に浮かぶ」は、野辺山高原を代表する「やまなしの木」と川上村から秩父山系に至る山並みと、その上にかかる雲の間から見える夏の天の川が印象的でした。星の写真の場合、一般的に快晴での下で撮影しようとする傾向が強いのですが、星景写真の場合は、夜空に雲があることによって地上と星空のつながりや星空の広がりなどが表現できる場合があります。また、一般には街明かりも嫌う傾向にあります。しかし、これら通常マイナス要素と思われるものを、すべてプラスに変えて、野辺山高原の星空と人々の繋がりを示していることに本作品の魅力があります。一方、特別賞南の水津惣一郎さんの作品「時と歩む」と、特別賞北の西田陽一さんの作品「世界遺産・知床の天の川」は、共に沖縄や北海道の雄大なる自然と天の川を非常に効果的に切り取った写真であり、甲乙付けがたい作品でした。今回、八ケ岳周辺部門からグランプリが出ましたが、日本国内部門からも、このようなすばらしい写真がたくさん集まり、急遽、特別賞（準グランプリ相当）を２点出すことになりました。八ケ岳周辺部門で、村長賞になった小林幹也さんの作品「防風林に昇る天の川」も、森の向こうに天の川が夜明けに懸かるタイミングで、ペンション街からの明かりが見え隠れしており、星空と人々の生活が一体となっている美しい野辺山高原の魅力を十分伝えている作品でした。

このように、「星のある風景」のコンテストは第一回目にも関わらず、非常にレベルの高い作品が集まりました。一方で、残念ながら、募集要項をよく読まずに応募されたと思われる作品も見受けられました。星景写真は、風景と星空を同時に映しだし、単独の星の写真とは異なる相乗効果を目指す、言い換えると、作者の心象風景を写しだす作品ということができます。ですから、いろいろな表現方法があるでしょう。一方、今回の公募展での「星景写真」はネーチャー・フォト(Nature Photo)の１分野としての写真として公募しました。ですから、応募作品の中で、明らかな合成写真が数点見られましたが、今回は、残念ながら審査から除外することにしました。

最後に、この「星のある風景」のコンテストは、今後、長野県南牧村主催で毎年開催する計画をしています。今後も、同コンテストが星景写真の普及と発展に寄与できる事を期待し、次回のコンテストへの応募もよろしくお願いします。